バス停からの小さな旅

あい愛バス

28 「下東公民館（フルーツ蜂屋線）」から 蜂屋の俳人・堀部魯九をめぐる旅

問文化の森 ☎28・1110

▲下蜂屋の下東公民館の背後にある茶磨山

蜂屋町下蜂屋の下東公民館の背後にある茶磨山は、江戸時代に生きた下蜂屋の出身の俳人・堀部魯九（生年不明、1750年没）が孤耕庵という庵を建てた地と伝えられています。

魯九は深田村（現深田町）に住んでいた俳人の兼松嘯風（1654～1706年）に俳諧の手ほどきを受け、松尾芭蕉の門人で蕉門十哲と呼ばれた内藤丈艸に師事します。元禄時代の蜂屋には魯九をはじめ俳句を志す人々が多くおり、孤耕庵には高名な俳人も訪れました。

ここから西方へ少し離れた所にある天神神社の鳥居の脇には、魯九の句碑があります。

「ちらちらと　粉のうく柿や　日の盛り」

美濃派の俳句集『藪の華』に載っている蜂屋柿が主題の句です。碑の建立は2005（平成17）年、当時の美濃加茂市長・川合良樹氏が現代風の伸びやかな筆致で書き表しました。魯九が見た蜂屋柿をめぐる光景は今もこの地に根付いています。

句作に遊んだ江戸時代の俳人の姿を想像しつつ今の景色を見歩くのも、また一興です。

▲鳥居脇の魯九の句碑

今回乗車したバス

行き：フルーツ蜂屋線　左回り5便

帰り：フルーツ蜂屋線　右回り6便

13時00分　美濃太田駅北口

13時20分　下東公民館

下車後、目前の茶磨山を見上げ、バス通りを5分ほど西へ歩く。天神神社の鳥居の東に立つ碑と神社を見学したら裏通りへ出て自然や景色を散策し、バス通りへ。

14時54分　下東公民館

15時13分　美濃太田駅北口